

岩井堂洞くつは、秋田県と山形県の県境、雄物川の最上流に合流する雄勝川右岸に所在する縄文時代の洞くつ遺跡である。史跡は約80mに及ぶ凝灰岩の露頭に大小4ヶ所の洞くつ（第1～第4洞くつ）が並んでおり、いずれも縄文時代に住居として利用され、各洞くつ及び前庭部に遺物の包含層が形成されている。

この遺跡の特色は、縄文式土器から弥生式土器・土師器^{はじり}にいたるまで数千年間にわたる古代日本の土器が13層の地層から出土していること、また、石器も多種多様で、とくに先のとがった縄文早期（約8千年前）の尖底土器は県内で初めて発見されていること、さらに、ここより出土した押型文土器等の文様は東北地方独特のものであるということにも大きな特色がある。それがために現在、学術上重要な資料となっている。

昭和53年までの秋田県教育委員会の協力のもとに実施された調査では、深さ8m、第11層から第14層まで確認されている。なお、第4洞くつは風化が進みつつあるため、埋め戻し保護するということで、59年・60年の環境整備で完全に地下に埋もれてしまっている。



▲埋める以前の岩井堂洞くつ

▼現在の岩井堂洞くつ



▲押型文土器



▲尖底土器



ご利用のご案内

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 毎週月曜日※ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日休館
年末年始（12月29日～1月3日）

入館料

区分	個人	団体（20人以上）
大人	320円	200円
中学生以下	210円	150円

湯沢市の主な観光行事

- 小町まつり 6月第2日曜日
- 七夕絵どうろまつり 8月5・6・7日
- 雄勝大花火大会 8月8日
- 仮装盆おどり 8月21日
- 大行列 9月第4日曜日
- 院内銀山まつり 9月21日
- 犬っこまつり 2月第2土曜日とその翌日

◆ お問い合わせ先 ◆

院内銀山異人館

〒019-0111 秋田県湯沢市上院内字小沢115番地
TEL・FAX 0183-52-5143

湯沢市教育委員会 雄勝生涯学習センター

〒019-0204 秋田県湯沢市横堀字白銀町49番地1
TEL 0183-52-2113 FAX 0183-52-2805

院内銀山の概要

院内銀山は、慶長元年（1596年）平鹿郡薄井村七郎左衛門発見という古い伝承があるが（慶長7年ともいう）、記録としては『院内銀山記』『慶長11年（1606年）村山宗兵衛発見』が最初である。それによれば、秋田藩は発見の翌年から採掘に取りかかり、山峡に大鉱山町が出現したという。当時の人口2万人、産銀高5333貫（2万kg）以上の説もある。

しかし、乱掘の結果衰退に陥り、享保10年（1725年）民間に請け負わせ、その後直営と請負を繰り返したが、文化14年（1817年）再び藩の直営として明治維新まで続いた。

天保4年（1833年）から14年まで産銀高が1000貫を超え、日本一の「天保の盛り山」時代になったが、幕末期には再び衰退した。

明治4年（1871年）院内銀山は新政府の管轄となり、5年には民間に委託したがうまくいかず、明治8年工部省の管理となり、明治12年からはドイツ人技師の来山と外国技術の採用により近代化を進めた。しかし鉱況は振るわず、15年には一時操業中止にまでなった。

明治18年に古河鉱業に払い下げとともに、発展の一途をたどり、明治28年頃は年産4000貫（1万5千kg）前後の産銀高となり、この年を中心にして前後10年以上日本一の座を占めた。

しかし鉱脈の掘り尽くしや鉱況の低下、事故等により不振の道をたどり、大正9年には坑道を閉鎖して事実上の閉山となり、昭和29年（1954年）に完全に閉山となり約350年の歴史に終止符を打った。



明治時代の銀山町

院内銀山坑内作業模型